

大学院教育支援機構（DoGS）海外渡航助成金 報告書

Outcome report

計画名 Plan	イリノイ大学訪問および人格・社会心理学大会での研究発表
氏名 Name	張 蕾
研究科・専攻・学年 Graduate school/Division/Year level	教育学研究科・教育学環専攻・博士後期課程 三年
渡航国 Country	アメリカ
渡航日程 Travel schedule	2025年02月19日～2025年03月03日

- ページ数に制限はありません。No limits on the number of pages
- 写真や図なども組み込んでいただいて結構です。You can include pictures or illustrations.
- 各項目について具体的に記述してください。Please fill in each item specifically.
- 日本語または英語で記載ください。Please use Japanese or English.

渡航計画の概要 Outline of the travel plan

今回の渡航のスケジュールは、まずパーソナリティ・社会心理学年次大会（Society for Personality and Social Psychology, SPSP）で研究発表を行い、その後、イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校（University of Illinois Urbana-Champaign, UIUC）の Brent W. Roberts 先生の研究室を訪問しました。

具体的なスケジュールは以下の通りです。

1. 2025年2月19日～22日：デンバーに滞在し、SPSP 学会で**「勤勉性の下位特性と幸福感の関係およびそのメカニズム」**という研究内容を発表しました。さまざまな研究者と深く交流を行い、有意義な意見交換ができました。

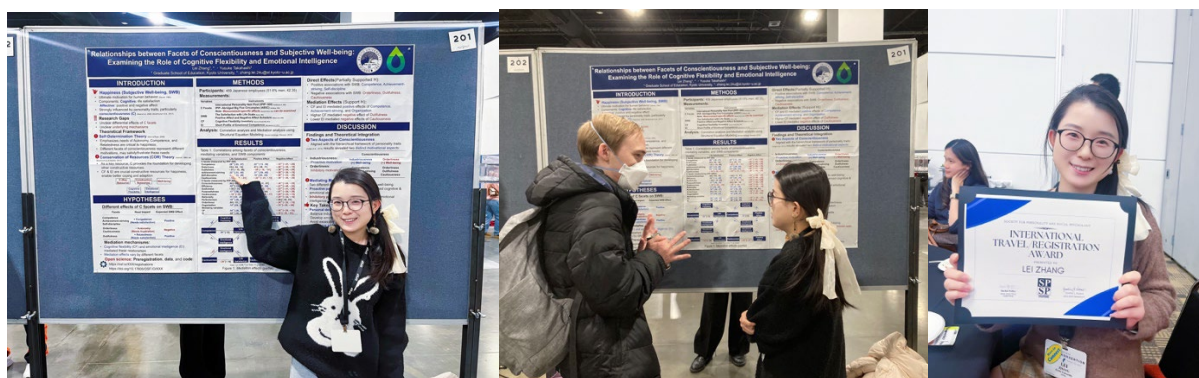


写真1 ポスター発表と受賞の様子

2. 2025年2月23日～3月1日：UIUC を訪問し、Brent 先生の研究室のゼミに参加しました。博士課程の研究成果を発表し、ポスドク研究計画について相談しました。また、勤勉性の縦断的データの活用および今後の方針についてディスカッションを行いました。

写真2 研究室の皆様と火鍋を囲んでの懇談会の様子



成果 Outcome

渡航により以下の成果が得られた。

1. SPSP 学会での発表とフィードバックの獲得
 - 自身の研究に対して、国内外の研究者から貴重なフィードバックを得ることができた。これにより、研究の妥当性や貢献度を確認し、さらなる改良の方向性を見出すことができた。
 - 学会参加を通じて、他の研究者とのネットワークを構築し、将来的な共同研究の可能性を探る貴重な機会を得た。
2. Brent 先生と研究室のメンバーとの研究交流
 - 自身の研究の課題点や不足点について具体的な助言を受け、博士論文およびポスドク研究計画の改善に役立つ知見を得ることができた。
 - 勤勉性の特性および状態レベルの測定に関する最新の方法論を学び、今後の研究に応用するための重要なヒントを得ることができた。
 - 私の研究テーマは Brent 先生の研究室の Cavan さんの研究テーマとよく似ていたため、彼から非常に丁寧なフィードバックをもらうことができた。

今後の展望 Prospects for the future

1. 博士論文およびポスドク研究計画の深化
 - Brent 先生から学んだ方法論を活用し、勤勉性の特性レベルと状態レベルの関係について、より精緻な研究を展開する。
 - Brent 先生の縦断的データの活用を通じて、勤勉性とメンタルヘルスの関係をさらに検証し、博士論文の完成度を高める。
2. 国際的な研究交流の強化
 - SPSP 学会で得たネットワークを活かし、同分野の研究者と連携しながら、学際的なアプローチを取り入れて研究を推進する。
 - 今後の研究活動において、特に勤勉性の二面性に関する研究では、UIUC の研究手法を取り入れ、より国際的な視野を持った研究成果を目指す。

本渡航を通じて得られた知見やネットワークは、博士論文の完成およびポスドク研究の準備において極めて重要な役割を果たすと考えている。最後に、本渡航に際しご支援を賜りました助成金に心より感謝申し上げます。